

プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均学生満足度に関する分析について
(共同IR報告書)

1. はじめに

大学コンソーシアム市川は2018年11月、千葉県市川市に所在する5つの高等教育機関(3大学、2短期大学)が教育資源や機能等の活用を図りながら幅広い分野で相互に連携協力し、教育・研究の質的向上を図り、地域社会の発展に資することを目的として設立されました。また、同時にこの大学コンソーシアム市川と市川市及び市川商工会議所との三者間の包括連携協定を締結し、「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム」を形成しました。本プラットフォームの特徴は、それぞれの高等教育機関のリソースを共同活用し、「ゆとりある子育て環境」「高齢化社会に対応した地域医療・福祉サービス」「現代社会にあった都市型ビジネスの展開」等といった都市型の具体的な地域課題を、実践的な学びの中で解決することにあります。この目的の達成のため、本プラットフォームでは市川市及び市川市の高等教育機関それぞれの現状を分析し、その課題と目的、及び実行のための具体的なプロセスを中期計画(2019年度～2023年度)としてまとめています。

本中期計画では、地域つながり力を持つ人材育成のため、12の取組目標を設定しています。この取組目標の評価について、2つのアウトカム目標が設定されていますが、その1つとして「プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均満足度が5段階評価で3.5以上」があります。本共同IRは、本コンソーシアム参加校5校のうち4校(千葉商科大学、和洋女子大学、昭和学院短期大学、東京経営短期大学)が、各校の学生生活等に関するアンケート結果の分析とその比較を通して、このアウトカム目標達成の一助となることを目的とし、2020年度より主体的な活動を行っています。

さて、本共同IRでは、2020年度、2022年度の2回にわたり報告書を作成し、各校のホームページにて情報公開をしています。2020年度の報告書では、各校の学生生活等に関するアンケート調査内容を分析し、学習時間、アルバイト、授業及び施設設備等に対する要望といった点に注目して、各校間の比較を行いました。大学と短大、共学の大学と女子大学など、それぞれの学校の主な特徴が明らかになり、それぞれに属している学生の特色や、今後の課題を確認することができたと考えられます。また2022年度の報告書では、新型コロナウイルス感染症により導入することとなった学生のオンライン授業の意識調査を通じて、各校が今後オンライン授業をどのように活用していくか、そして大学コンソーシアム市川内でのこれからのオンライン授業の在り方に注目して、各校間の比較を行いました。学生だけではなく、オンラインコンテンツを通じた学びなおしの場合として、各高等教育機関が今後役割を拡大していく可能性について示唆を得ることができたと考えられます

今回の報告書では、中期計画(2019～2023年度)の総括として、アウトカム目標である「プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均満足度が5段階評価3.5以上」の達成状況とその要因を分析しました。この分析により、本プラットフォームの次期中期経営計画の策定・実行等への一助となることを目指すとともに、各校の今後の教育活動に向けた示唆を得ることを目的としています。

2. 調査・分析方法

千葉商科大学、和洋女子大学、昭和学院短期大学、東京経営短期大学が定期的実施している卒業時アンケート調査や学生アンケート調査における、「プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均満足度が5段階評価3.5以上」の達成状況に関連する質問項目を対象に、その結果を集計・分析しました。

なお、本分析に用いたアンケートの回答者数、実施方法は表1の通りです。また、各校の「プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均満足度が5段階評価 3.5 以上」の達成状況は表2の通りです。なお、4 段階評価の高等教育機関については、5 段階評価に換算しています。次章では、各校の詳細について報告します。

表1. 各校の卒業時アンケート調査、学生アンケート調査の回答者数及び実施方法

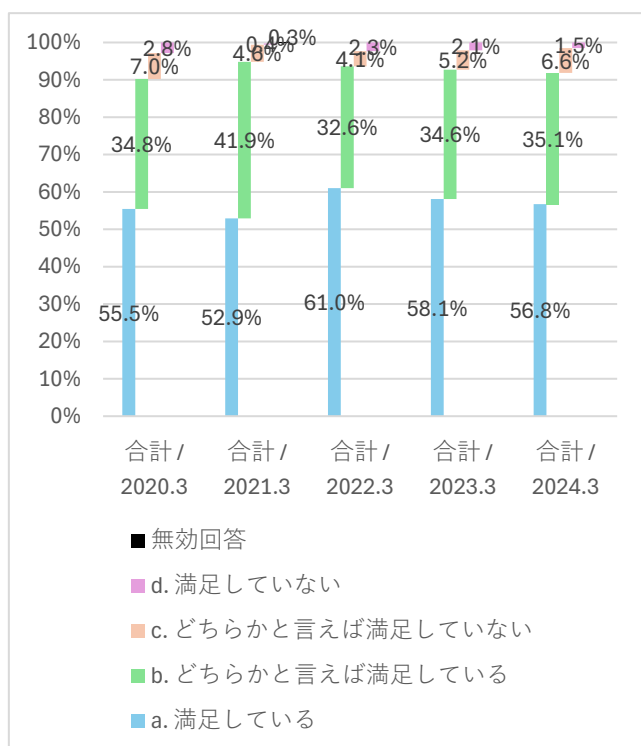
	回答者数	実施方法
千葉商科大学	5,550	オンライン
和洋女子大学	213	オンライン
昭和学院短期大学	852	オンライン
東京経営短期大学	326	紙

表2. 各校の卒業時満足度の推移

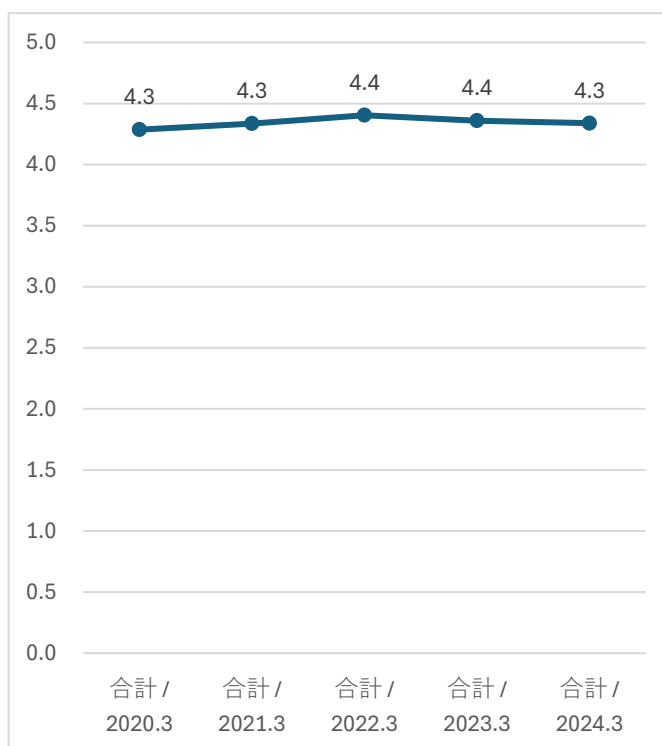
	2019	2020	2021	2022	2023
千葉商科大学	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3
和洋女子大学	—	4.0	—	4.2	—
昭和学院短期大学	4.5	4.4	4.4	4.2	4.4
東京経営短期大学	—	4.4	4.3	4.6	4.4

3. 分析結果

(1) 千葉商科大学



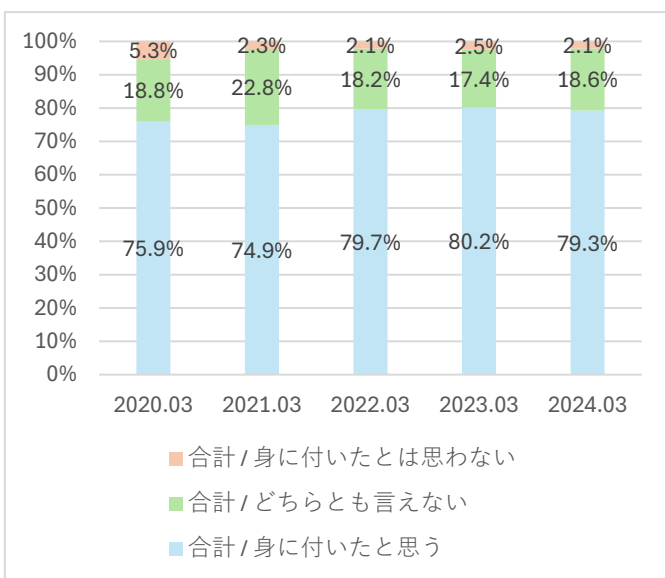
図(1)-1. 卒業時アンケート (学生満足度の設問)



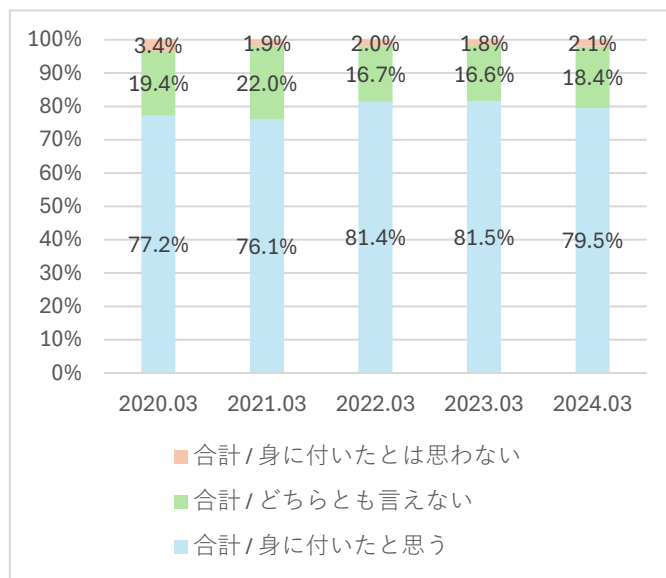
図(1)-2. 卒業時満足度推移

このアンケートは、教育や学生生活に関する学生の意見や要望を把握するとともに、ディプロマ・ポリシーで定めた3つの力である「専門的な知識・技能」「幅広い教養」「高い倫理観」に対する学生自身の主観評価を把握することを目的に調査を行っています。今回の分析では、2019年度から2023年度までの5年間の3月卒業生を対象として実施されたアンケートについて、分析を行いました。

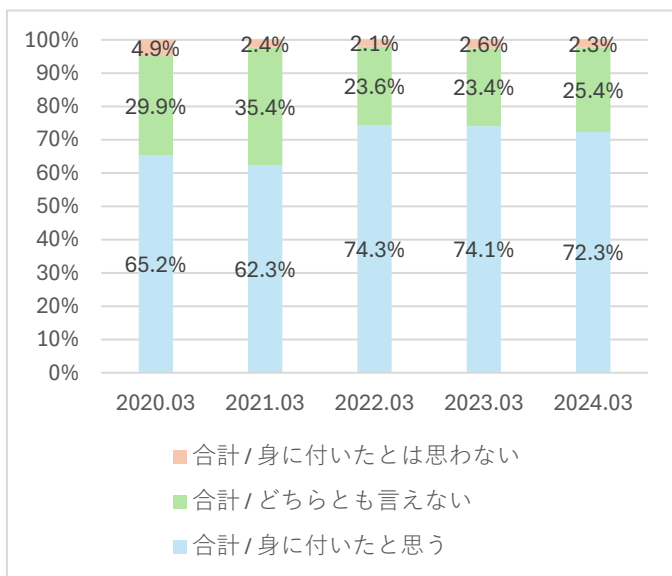
まず、卒業時の平均学生満足度については、設問「本学の教育や学生生活は満足できるものでしたか？」に対する「満足している」、「どちらかと言えば満足している」、「どちらかと言えば満足していない」、「満足していない」の4段階評価を5段階評価に換算した上で平均値を算出しています。本学の卒業時の平均学生満足度は「図(1)-2. 卒業時満足度推移」の折れ線グラフの通り、4.3~4.4で安定して推移しており、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の回答割合が9割を超えていることから、本学の卒業時の学生満足度は概ね高い状況にあると考えられます。



図(1)-3. 「専門的な知識技能」主観評価割合推移



図(1)-4. 「幅広い教養」主観評価割合推移



図(1)-5. 「高い倫理観」主観評価割合推移

		専門的な知識・技能		
2020.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	50.6%	3.6%	1.3%	
どちらかと言えば満足している	22.6%	10.7%	1.5%	
どちらかと言えば満足していない	2.2%	3.4%	1.3%	
満足していない	0.4%	1.2%	1.2%	
2021.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	48.2%	4.7%	0.3%	
どちらかと言えば満足している	25.4%	15.7%	0.8%	
どちらかと言えば満足していない	1.3%	2.3%	1.0%	
満足していない	0.0%	0.1%	0.3%	
2022.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	57.1%	3.7%	0.2%	
どちらかと言えば満足している	20.1%	12.0%	0.5%	
どちらかと言えば満足していない	1.7%	2.1%	0.2%	
満足していない	0.7%	0.4%	1.1%	
2023.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	54.4%	3.0%	0.6%	
どちらかと言えば満足している	22.7%	11.5%	0.4%	
どちらかと言えば満足していない	2.2%	2.4%	0.6%	
満足していない	0.8%	0.4%	0.9%	
2024.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	53.3%	3.2%	0.2%	
どちらかと言えば満足している	23.1%	11.5%	0.6%	
どちらかと言えば満足していない	2.5%	3.6%	0.6%	
満足していない	0.5%	0.3%	0.7%	

図(1)-6. 学生満足度×専門的な知識・技能

また、設問「本学の教育や学生生活は満足できるものでしたか?」と、本学のディプロマ・ポリシーとして定めた3つの力「専門的な知識・技能」「幅広い教養」「高い倫理観」のそれぞれについての達成度を主観評価する設問「入学時点と比較して、大学生活を通じて、「3つの力」が身に付いたと思いますか?」(図(1)-3~(1)-5)とでクロス集計を行いました。その結果は図(1)-6~(1)-8の通りです。3つの力に共通して、身に付いたと感じる学生ほど、卒業時の満足度が高い傾向が見られます。特に満足度が高く、かつ「高い倫理感」が身に付いたと思う学生の割合が増加していることが特徴的です。一方で、3つの力に対して「どちらとも言えない」と回答した学生についても、「満足している」「どちらかと言えば満足している」を選択する傾向も見られました。

また、2023年度の卒業生のデータを用い、卒業時の満足度と3つの力「専門的な知識・技能」「幅広い教養」「高い倫理観」それぞれの達成度における主観評価について、 χ^2 検定を行うとともに、Cramerの連関係数(Cramer's V)を算出しました。 χ^2 検定はそれぞれの項目の関係性、つまりここでは卒業時の満足度と3つの力の達成度に対する主観評価についての関係の“有無”を示す検定で、今回は有意水準を5.0%に設定しました。また、Cramerの連関係数は、関連の“強さ”を示す統計量で、0.0~1.0までの値をとります。

		幅広い教養		
2020.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	51.5%	3.6%	0.4%	
どちらかと言えば満足している	23.1%	10.8%	0.9%	
どちらかと言えば満足していない	2.2%	3.8%	0.9%	
満足していない	0.4%	1.2%	1.2%	
2021.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	48.3%	4.8%	0.1%	
どちらかと言えば満足している	26.2%	14.7%	1.0%	
どちらかと言えば満足していない	1.5%	2.4%	0.7%	
満足していない	0.0%	0.2%	0.2%	
2022.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	58.4%	2.5%	0.2%	
どちらかと言えば満足している	20.7%	11.5%	0.4%	
どちらかと言えば満足していない	1.6%	2.1%	0.3%	
満足していない	0.7%	0.6%	1.1%	
2023.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	54.6%	3.0%	0.5%	
どちらかと言えば満足している	23.2%	11.0%	0.4%	
どちらかと言えば満足していない	0.9%	2.0%	0.3%	
満足していない	0.9%	0.6%	0.6%	
2024.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	52.9%	3.7%	0.2%	
どちらかと言えば満足している	23.9%	10.7%	0.6%	
どちらかと言えば満足していない	2.5%	3.7%	0.5%	
満足していない	0.3%	0.3%	0.9%	

図(1)-7. 学生満足度×幅広い教養

		高い倫理観		
2020.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	46.0%	8.7%	0.7%	
どちらかと言えば満足している	16.7%	16.1%	1.9%	
どちらかと言えば満足していない	1.9%	4.0%	1.0%	
満足していない	0.6%	1.0%	1.2%	
2021.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	42.1%	10.6%	0.4%	
どちらかと言えば満足している	19.1%	21.8%	1.1%	
どちらかと言えば満足していない	1.1%	2.7%	0.8%	
満足していない	0.0%	0.2%	0.2%	
2022.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	55.9%	5.3%	0.3%	
どちらかと言えば満足している	16.6%	15.7%	0.3%	
どちらかと言えば満足していない	1.6%	2.1%	0.4%	
満足していない	0.7%	0.6%	1.0%	
2023.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	51.8%	6.0%	0.3%	
どちらかと言えば満足している	19.6%	14.2%	0.8%	
どちらかと言えば満足していない	2.1%	2.6%	0.5%	
満足していない	0.6%	0.5%	1.0%	
2024.03	身に付いたと思う	どちらとも言えない	身に付いたとは思わない	
満足している	51.1%	5.5%	0.2%	
どちらかと言えば満足している	19.4%	15.2%	0.6%	
どちらかと言えば満足していない	1.8%	4.0%	0.8%	
満足していない	0.1%	0.7%	0.7%	

図(1)-8. 学生満足度×高い倫理観

3つの力	$\chi^2(6)$	p値	Cramer's V
専門的な知識・技能	437.6	p<.001	0.346
幅広い教養	515.8	p<.001	0.408
高い倫理観	469.6	p<.001	0.371

図(1)-9. 学生満足度×3つの能力要素の関連性

自由度	α			
	0.1	0.05	0.01	0.001
1	2.71	3.84	6.63	10.83
2	4.61	5.99	9.21	13.82
3	6.25	7.81	11.34	16.27
4	7.78	9.49	13.28	18.47
5	9.24	11.07	15.09	20.52
6	10.64	12.59	16.81	22.46

図(1)-10. χ^2 検定分布表

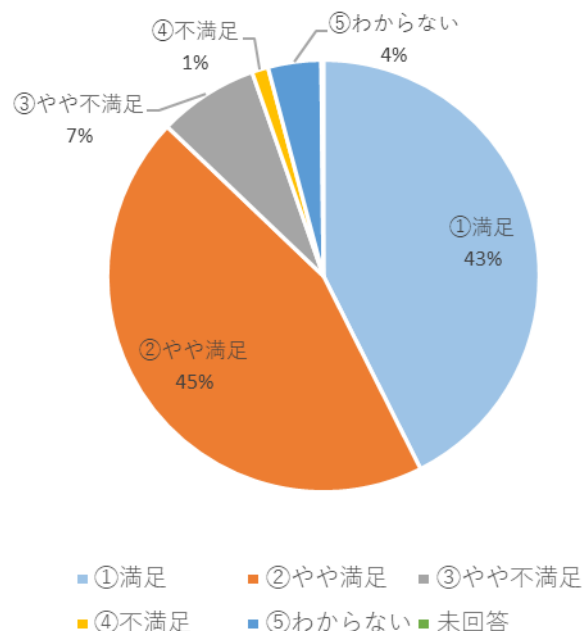
χ^2 検定の結果及び Cramer の連関係数を図(1)-9 に示します。結果、学生満足度と3つの力に対する主観評価の関連性の有無については、どの力についても 5.0%水準で統計的に有意な差が見られました。また、Cramer の連関係数については、どの力についても 0.3~0.4 程度となり、ある程度の関連性があるとの結果となりました。

よって、学生満足度と3つの力における達成度の主観評価には、関連性がある可能性が高いことが示されました。ただ、3 つの力の主観評価を高める要因が何かについては、今後の調査課題とする必要があります。また、Cramer の連関係数の結果は、両者の関係が明確に強いとは言い切れません。本学では、引き続き、卒業時満足度調査をはじめとする各種調査の結果を用いて、3 つの力の主観評価の要因分析と、満足度の要因分析を行い、今後の教育活動への改善に繋がりたいと考えています。

(2) 和洋女子大学

A) 卒業年次生アンケート結果 (2023 年度)

図(2)-1 「あなたは和洋女子大学での4年間の学生生活に満足していますか？」

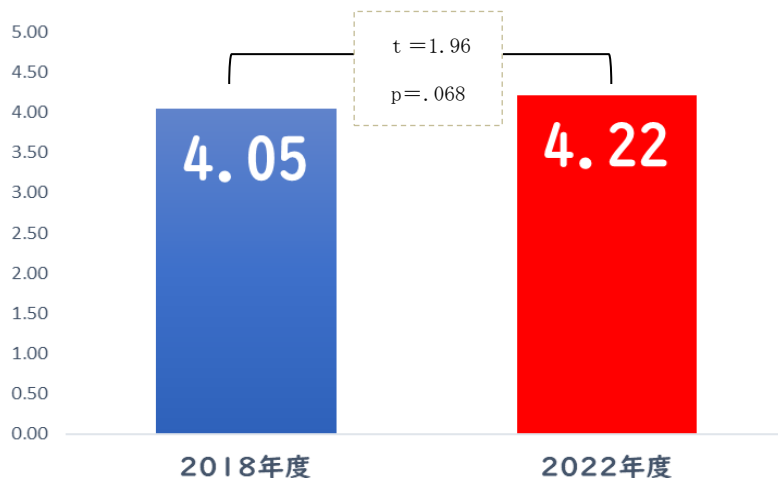


①満足	②やや満足	③やや不満足	④不満足	⑤わからない・未回答
278	291	49	8	27
42.6% (38.7%)	44.6% (44.5%)	7.5% (10.2%)	1.2% (2.2%)	4.1% (4.3%)

注 () 内は 2022 度の%

B) 学生生活アンケート（2018年度/2022年度）満足度設問に関する比較分析

図(2)-2 和洋女子大学の満足度 平均値の比較（5段階評価）



注 1) 2018年度 n=179、2022年度 n=213

注 2) 2022年度調査=2019年度入学生・2018年度調査=2015年度入学生であり、満足度の平均値比較は4年次生のみ抽出した結果

注 3) コロナ禍を経験している学年（2022年度調査）とそうではない学年（2018年度調査）を比較するため、今回の分析では2020年度調査は対処外とした。

図(2)-3 「全対的にみて和洋女子大学についてどう感じていますか？」

			全体的にみて和洋女子大学について どう感じていますか(選択必須)					合計
			満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満	
2018年度	累積GPA 区分	0.00~0.99	9	6	2	1	0	18
			50.0%	33.3%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
		1.00~1.99	9	6	2	1	0	18
			50.0%	33.3%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
		2.00~2.99	26	55	15	7	3	106
	24.5%	51.9%	14.2%	6.6%	2.8%	100.0%		
	3.00~4.00	25	23	5	2	0	55	
		45.5%	41.8%	9.1%	3.6%	0.0%	100.0%	
合計			60	84	22	10	3	179
			33.5%	46.9%	12.3%	5.6%	1.7%	100.0%
2022年度	累積GPA 区分	0.00~0.99	0	0	0	0	1	1
			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
		1.00~1.99	4	4	4	0	0	12
			33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
		2.00~2.99	33	33	10	4	0	80
	41.3%	41.3%	12.5%	5.0%	0.0%	100.0%		
	3.00~4.00	56	48	12	2	2	120	
		46.7%	40.0%	10.0%	1.7%	1.7%	100.0%	
合計			93	85	26	6	3	213
			43.7%	39.9%	12.2%	2.8%	1.4%	100.0%

	値	有意確率 (両側)
2018年度	11.336 ^b	0.183
2022年度	79.294 ^c	0.000

注 1) 2018年度 n=179、2022年度 n=213 注 2) 横%

注 3) 無回答による欠損値は除外している。

図(2)-4 学生生活アンケートの中で満足度を確認している質問項目（5段階評価）

従属変数	全体的にみて和洋女子大学についてどう感じていますか。 【5満足 4まあ満足 3どちらともいえない 2やや不満足 1不満】
独立変数	専門科目（講義）の授業についての満足度
	専門科目（卒論・ゼミ・実習等）の授業についての満足度
	共通総合科目（基礎教養科目 人文科学・社会科学・生活科学・人間科学）の授業についての満足度
	共通総合科目（和洋アビリティーズ 基礎ゼミ・キャリアデザイン・PC 科目）の授業についての満足度
	共通総合科目（外国語科目）の授業についての満足度
	資格科目（全学共通：教職課程・司書課程・博物館学芸員課程）の授業についての満足度
	卒業後の就職や進学に対する大学の支援態勢についての満足度

図(2)-5 2018年度重回帰分析の結果

	非標準化係数	標準化係数	有意確率
	B	ベータ	
(定数)	0.465		0.334
卒業後の就職や進学に対する大学の支援態勢について	0.341	0.380	0.000
専門科目(講義)の授業についての満足度	0.348	0.269	0.003
共通総合科目(基礎教養科目:人文科学・社会科学・生活科学・人間科学)の授業についての満足度	0.178	0.208	0.013
調整済みR2乗	0.385		
F値(有意確率)	21.677 (0.001)		

従属変数：満足度

(まとめ)

2023年度に実施された卒業年次アンケートの結果は、A)図(2)-1の通りです。「満足(43%)」「やや満足(45%)」をあわせると、8割を超える満足度でした。2022年度の卒業年次アンケートもほぼ同様の結果でした。本学の卒業年次アンケートは紙とオンラインでの実施しており、回答の収集方法が混在しているため、今回の調査では、2018年度と2022年度の学生生活アンケート調査結果(隔年実施)の満足度を確認している設問の中から卒業年次の4年生を対象に分析を行いました。

B)図(2)-2は、満足度をはかる設問について、5段階評価による平均値を比較した結果で両年度の平均値ともアウトカム目標の平均学生満足度3.5を上回っていました。また、2018年度と2022年度の平均値の差についてt検定を実施した結果、 $p=.068$ であり有意傾向と解釈しました。図(2)-3は、4年次の学生に対して本学についての「満足度」と累積GPAとの関連について χ^2 検定を実施した結果です。回答した学生の累積GPAを区分ごとに見ると、2018年度は「2.00~2.99」が最も多く分布しているのに対して、2022年度は「3.00~4.00」の成績上位区分に多く学生が分布しており、2022年度の結果は満足度と成績との関連性も確認できました。

また、図(2)-4では「満足度」を従属変数として、他の満足度を確認している質問項目を独立変数として重回帰分析を行なった結果、2018年度は「満足度」に影響を与えている独立変数は「就職支援や進学支援に関する満足度」「専門科目(講義)の授業に対する満足度」「共通総合科目(基礎教養科目)の満足度」が有意性を示していました(図(2)-5)。一方で、2022年度の結果は「就職支援や進学支援に関する満足度」「共通総合科目(基礎教養科目)の満足度」「共通総合科目(外国語科目)の満足度」に関する質問項目が満足度に影響を与えていました(図(2)-6)。

図(2)-6 2022年度重回帰分析の結果

	非標準化係数	標準化係数	有意確率
	B	ベータ	
(定数)	0.328		
卒業後の就職や進学に対する大学の支援態勢について	0.589	0.579	0.000
共通総合科目(基礎教養科目:人文科学・社会科学・生活科学・人間科学)の授業についての満足度	0.190	0.201	0.009
共通総合科目(外国語科目)の授業についての満足度	0.135	0.161	0.041
調整済みR2乗	0.526		
F値(有意確率)	36.660 (0.001)		

従属変数：満足度

以上の結果から 2022 年度に 4 年次だった卒業生は、2019 年度に入学した学生であり、在学中の 2 年次～3 年次にかけての 2 年間はコロナ禍によりオンライン授業を余儀なくされた学年でもありますが、オンライン授業への満足度は対面授業と比較しても決して低くはない結果であったことは先の調査で示されていました。これは、オンライン授業が実施されたにも関わらず、結果的に学業成績に悪い影響を与えなかったことは、教育の質の維持や学生の適応力が増したといえるのかもしれませんが。しかしながら、2022 年度の重回帰分析の解析結果をみても分かるように専門科目に関する満足度を確認している質問項目は統計的な有意性が示されませんでした。例えば、演習や実習を含む科目について更に調査することにより、新たな示唆を得られる可能性があります。また、満足度に影響を与えている変数は授業以外の課外活動等も考えられます。よって、今後の調査課題としては、投入する独立変数を増やししながら分析を進めることにより更なる学生の満足度の向上に努めていきたいと思えます。

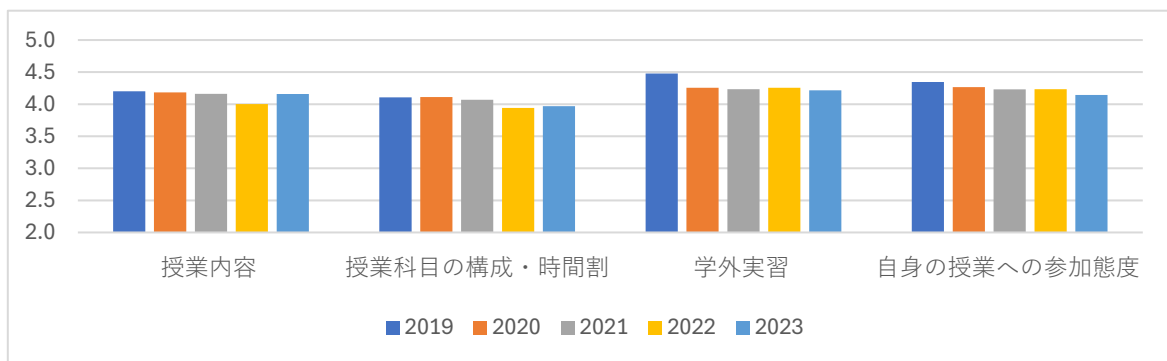
注) オンライン授業（オンデマンド授業・同時双方向授業）の意

(3) 昭和学院短期大学

昭和学院短期大学では、毎年学年末に全学生を対象として「学生生活満足度調査」を実施しています。このアンケート調査では、学生生活に関する学生の意見や要望を把握すること、学生自身への教育効果を調査することを目的に、幅広い項目について「とても満足」「やや満足」「やや不満」「とても不満」の 4 段階評価及びコメントにて調査を行っています。

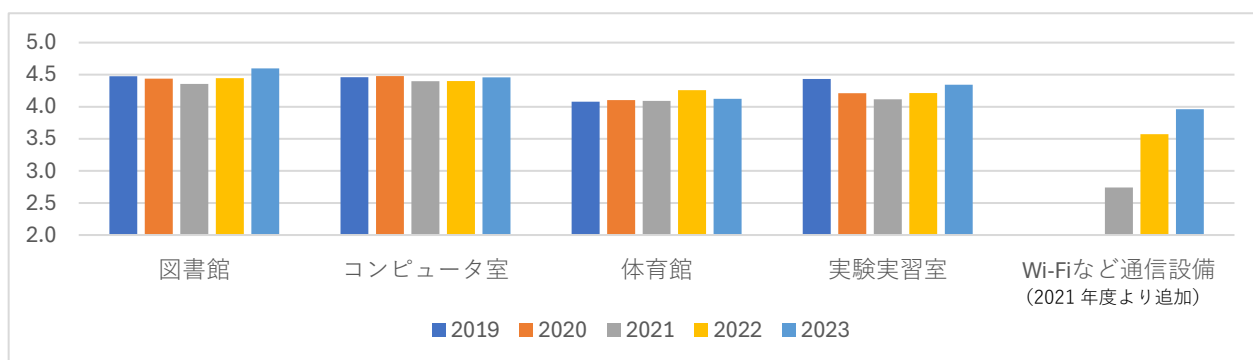
今回の分析では、2019 年度から 2023 年度までの過去 5 年間のアンケート調査について卒業生の回答を抽出し、4 段階評価を 5 段階評価に換算しています。以下図(3)-1～5 に集計結果を示します。

まず、授業に関する設問についてまとめると、「授業内容」は 4.0～4.2、「構成・時間割」は 3.9～4.1、教育実習や保育実習、給食管理校外実習等の「学外実習」は 4.2～4.5、「自身の授業への参加態度」は 4.1～4.3 の間で推移しています(図(3)-1)。



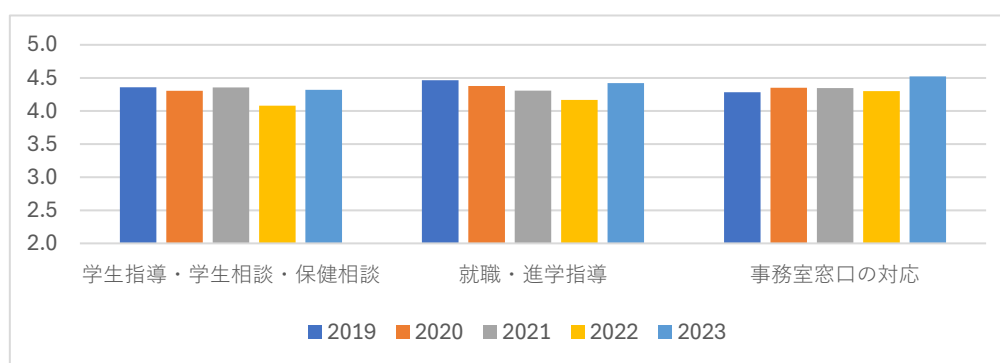
図(3)-1: 授業関係

施設設備の設問では、「図書館」は 4.4～4.6、「コンピュータ室」は 4.4～4.5、「体育館」は 4.1～4.3、「実験実習室」は 4.1～4.4 の間で推移しています。一方で、「Wi-Fi などの通信設備」は、2021 年度の平均が 2.7 と低い結果となり、通信速度やネットワークの不安定さについて学生の意見が多く寄せられました。これを受けて 2022 年 3 月に学内 LAN の更新工事を行いました。その後もアクセスポイントを増設するなど学生の LAN 環境の改善を図ったことで満足度は大きく向上しました(図(3)-2)。



図(3)-2:施設設備

教員の学生指導・進路指導、事務職員の窓口対応の設問では、「学生指導・学生相談・保健相談」は 4.1～4.4、「就職・進学指導」は 4.2～4.5、「事務室窓口の対応」は 4.3～4.5 の間で推移しています(図(3)-3)。

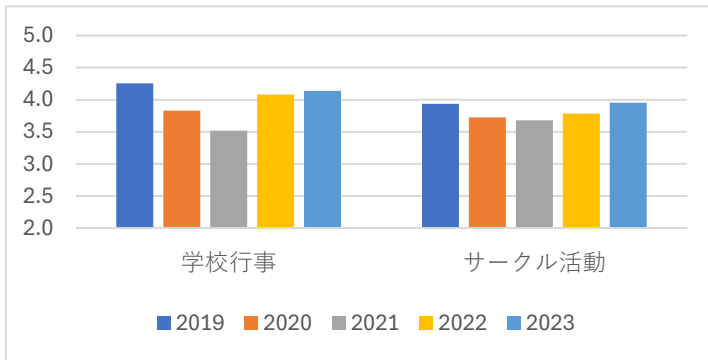


図(3)-3:学生指導・進路指導・窓口対応

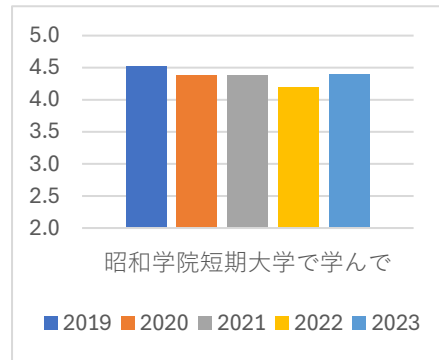
「学校行事」の設問では、2019年度の平均 4.3 から 2020年度・2021年度で 3.8、3.5 に下がりました。これは、コロナ禍で研修旅行や体育祭、文化祭が実施できなかった、または縮小して開催したことが影響していると考えられます。また「サークル活動」については、3.7～4.0 の間で推移しています。学校行事同様コロナ禍の影響は少なからずあると考えられますが、例年他の設問と比較して満足度が低い傾向にあります。これは短期大学のカリキュラムの特性上、資格取得に向けた学科専攻では時間割に余裕がなく、サークル活動に参加する学生が少ないことが要因と考えられます(図(3)-4)。

総合満足度「昭和学院短期大学で学んで」の設問では、4.2～4.5 の間で推移し、アウトカム目標値「3.5」を達成しています。5年間で最も満足度が低いのは、2022年度の 4.2 です(図(3)-5)。

これまでの各設問結果を踏まえると、施設設備や学校行事、サークル活動の満足度については総合満足度への影響は小さく、一方で授業内容や時間割、学生指導・進路指導の満足度は 2022年度の結果が最も低いことから、総合満足度に影響を与える要因の一つと考えられます。



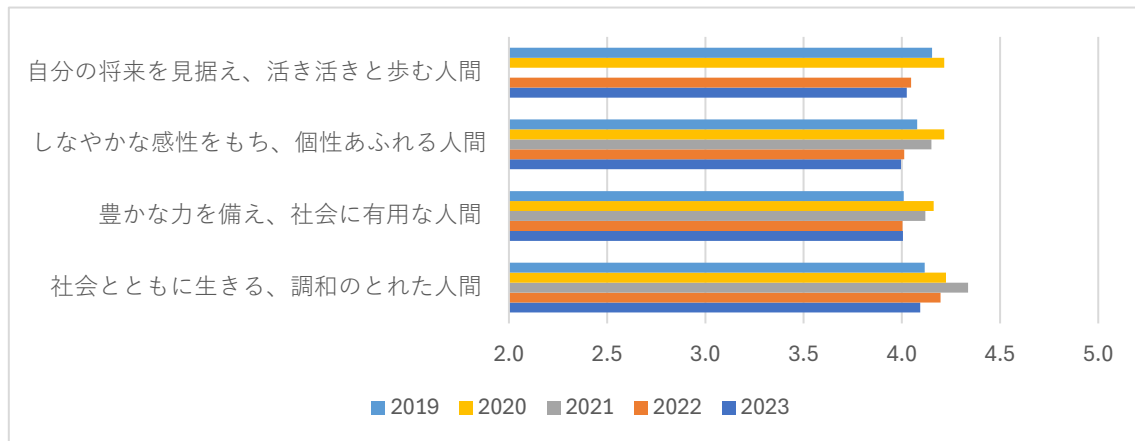
図(3)-4:学校行事・サークル活動



図(3)-5:総合満足度

また、同アンケート調査の中で、教育理念の達成度を学生の主観評価により調査しています。回答は「とても身についた」「やや身についた」「身についたと思わない」の3段階とし、これを5段階に換算した結果、各年の全ての設問で平均が4を超えており、ほとんどの学生が身についたと評価しています(図(3)-6)。

また、各教育理念と総合満足度をクロス集計したところ、「とても身についた」、「やや身についた」と回答した学生ほど総合満足度が高い傾向が見られました(図(3)-7)。



図(3)-6:教育理念の達成度(学生の主観評価)

※2021年度「自分の将来を見据え、生き活きと歩む人間」のデータはファイルエラーにより欠損

【自分の将来を見据え、生き活きと歩む人間】				【しなやかな感性をもち、個性あふれる人間】					
年度	評価	とても身についた	やや身についた	身についたと思わない	年度	評価	とても身についた	やや身についた	身についたと思わない
		2019年度	とても満足	48.1%			16.8%	0.8%	2019年度
2019年度	やや満足	6.9%	19.8%	3.8%	2019年度	やや満足	3.1%	23.8%	3.1%
	やや不満	0.0%	2.3%	0.8%		やや不満	0.0%	1.5%	1.5%
	とても不満	0.0%	0.8%	0.0%		とても不満	0.8%	0.0%	0.0%
	データ欠損					データ欠損			
2020年度	とても満足	39.6%	14.4%	0.0%	2020年度	とても満足	40.6%	13.4%	0.0%
	やや満足	13.9%	28.3%	0.5%		やや満足	12.3%	30.5%	0.0%
	やや不満	0.0%	2.7%	0.0%		やや不満	0.0%	2.7%	0.0%
	とても不満	0.0%	0.5%	0.0%		とても不満	0.0%	0.5%	0.0%
2021年度	とても満足				2021年度	とても満足	39.8%	16.1%	0.0%
	やや満足					やや満足	10.6%	29.8%	0.0%
	やや不満					やや不満	0.0%	2.5%	0.0%
	とても不満					とても不満	0.0%	0.0%	1.2%
2022年度	とても満足	35.4%	11.1%	0.0%	2022年度	とても満足	31.7%	14.8%	0.0%
	やや満足	9.0%	34.4%	1.1%		やや満足	9.0%	35.4%	0.0%
	やや不満	1.6%	3.2%	1.6%		やや不満	1.6%	3.7%	1.1%
	とても不満	0.5%	1.1%	1.1%		とても不満	0.5%	1.1%	1.1%
2023年度	とても満足	36.8%	22.2%	0.0%	2023年度	とても満足	36.8%	22.2%	0.0%
	やや満足	6.4%	28.1%	1.2%		やや満足	5.3%	29.2%	1.2%
	やや不満	0.0%	2.9%	0.6%		やや不満	0.0%	2.3%	1.2%
	とても不満	0.0%	1.8%	0.0%		とても不満	0.0%	1.8%	0.0%

【豊かな力を備え、社会に有用な人間】

		とても身についた	やや身についた	身についたと思わない
2019年度	とても満足	42.3%	23.1%	0.8%
	やや満足	3.1%	24.6%	2.3%
	やや不満	0.0%	0.8%	2.3%
	とても不満	0.0%	0.8%	0.0%
2020年度	とても満足	39.0%	15.0%	0.0%
	やや満足	11.8%	30.5%	0.5%
	やや不満	0.0%	2.1%	0.5%
	とても不満	0.0%	0.5%	0.0%
2021年度	とても満足	37.9%	18.0%	0.0%
	やや満足	11.2%	28.6%	0.6%
	やや不満	0.0%	2.5%	0.0%
	とても不満	0.0%	0.0%	1.2%
2022年度	とても満足	32.3%	14.3%	0.0%
	やや満足	11.1%	31.2%	2.1%
	やや不満	1.1%	4.2%	1.1%
	とても不満	0.0%	1.6%	1.1%
2023年度	とても満足	34.5%	24.0%	0.6%
	やや満足	7.6%	27.5%	0.6%
	やや不満	0.0%	2.9%	0.6%
	とても不満	0.0%	1.8%	0.0%

【社会とともに生きる、調和のとれた人間】

		とても身についた	やや身についた	身についたと思わない
2019年度	とても満足	47.3%	17.8%	0.8%
	やや満足	4.7%	22.5%	3.1%
	やや不満	0.0%	1.6%	1.6%
	とても不満	0.8%	0.0%	0.0%
2020年度	とても満足	41.2%	12.8%	0.0%
	やや満足	12.3%	30.5%	0.0%
	やや不満	0.0%	2.7%	0.0%
	とても不満	0.0%	0.5%	0.0%
2021年度	とても満足	42.2%	13.7%	0.0%
	やや満足	19.3%	21.1%	0.0%
	やや不満	0.0%	2.5%	0.0%
	とても不満	0.0%	0.0%	1.2%
2022年度	とても満足	37.6%	9.0%	0.0%
	やや満足	14.3%	30.2%	0.0%
	やや不満	1.6%	3.7%	1.1%
	とても不満	0.5%	1.1%	1.1%
2023年度	とても満足	41.5%	17.0%	0.6%
	やや満足	8.2%	25.1%	2.3%
	やや不満	0.0%	2.3%	1.2%
	とても不満	0.0%	1.8%	0.0%

図(3)-7:総合満足度と教育理念のクロス集計結果

以上の結果から、教育の向上・充実が学生満足度の向上に繋がると考えられます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においては、オンライン授業の導入、学内体制やシステムの整備、その他様々なICTの活用等により学生満足度を維持することができたと考えています。

今後も各種アンケート調査を実施、分析し、様々な教育活動を見直すことで学生満足度の向上に繋げていきたいと考えています。

(4)東京経営短期大学

東京経営短期大学は、2020 年度から毎年、卒業式当日に「卒業時の満足度調査アンケート」を実施しています。「卒業時の満足度調査アンケート」は、中立的選択肢を避け 4 段階で実施し在学期間の満足度、成果度などのアウトカムがポジティブかネガティブかを掴むツールとしています。なお、大学コンソーシアム市川では分析項目の選定基準が「5 段階による 3.5 点以上の項目」である事から、分析項目の選定では 4 段階数値を単純換算して選出しました。

(共通：満足度)
 問1. 本学における学生生活は満足できるものでしたか
 問2. 本学に就職指導・進学指導は満足できるものでしたか
 問3. 本学における内容は満足できるものでしたか
 問4. 本学の学校行事等は満足できるものでしたか
 問8. 東京経営短期大学で学んで良かったと思いますか

の選定基準が「5 段階による 3.5 点以上の項目」である事から、分析項目の選定では 4 段階数値を単純換算して選出しました。

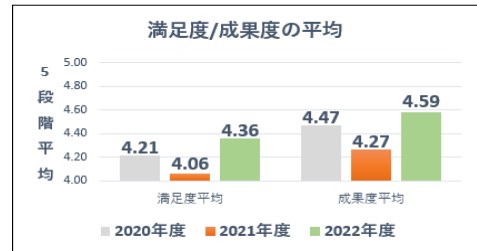
(経営総合学科：成果度)
 問5. 入学時点と比較して、実践的な知識を身につけたと思いますか
 問6. 入学時点と比較して、社会人として必要な教養を身につけたと思いますか
 問7. 入学時点と比較して、経済社会の動向に関心を持ち、修得した知識・技能・資格をもとに、問題解決に向けて行動することができるようになり
 ました。

(こども教育学科：成果度)
 問5. 入学時点と比較して、子どもの心と身体の発達をサポートするための専門的な技術を身につけたと思いますか。
 問6. 入学時点と比較して、自ら進んで動くことができる「現場力」と園運営をサポートできるマネジメント力を身につけたと思いますか。
 問7. 豊富な遊びや運動を通じて、感じたことや考えたことを自分なりに表現し、自ら豊かな感性を表現する力を養い、子どもの心身を育みながら、子どもの豊かな表現力を引き出すことができるようになりましたか

(共通文語：成果度)
 問5. 実践的な知識/専門的な技術を身につけたと思いますか
 問6. 社会人教養・現場力・マネジメントを身につけたと思いますか
 問7. 知識・技能・資格をもとに自ら考えて問題解決に向けて行動できますか

	満足度設問群				成果度設問群		
	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
2020年度	4.22	4.20	4.13	4.12	4.40	4.59	4.25
2021年度	4.03	4.18	4.09	3.66	4.34	4.39	4.09
2022年度	4.35	4.35	4.35	4.11	4.63	4.67	4.47

但し、それぞれの具体的な満足度、成果度の個別分析については、アンケート採取時の 4 段階数値を用いて考察を行います。なお、成果度に関する設問は、学科毎で設問の文語が異なりますが、分析では共通して扱える文語に揃えて取り扱います。



A) 経年変化からみた特徴

本学では、満足度、成果度共に4点台をキープしていますが、各設問数値を経年で概観すると、2021 年度卒業生と 2022 年度卒業生において特徴が見られます。本学は、この2期の学生の在籍期間を振り返り考察いたします。この時期は、新型コロナウイルス感染症が教育環境や短大生活に影響している年代です。

図(4)-1.満足度と成果度の平均 (5段階)

2021 年度卒業生は、2020 年 4 月 1 日入学から 2022 年 3 月 15 日卒業に至るまでの全在籍期間において学修環境が急激に変化しました。それらに適応するために数多くの困難を強いられ、学業面、生活面で思うように進まない状況に遭遇しています。2020 年度との比較で、全項目で下振れし、満足度平均 4.06、成果度平均 4.27 を示しています。特に、設問 4 (学校行事の満足度) は 3.66 と低い状態です。

一方、2022 年度卒業生は、2021 年 4 月 1 日入学から 2023 年 3 月 15 日卒業です。入学当初は比較的不自由な状態があるが、月日を経るごとに新しい生活様式にも順応し、短大での学修環境ではオンラインと対面を組み合わせ合わせたハイブリッド学習にも慣れてくるなど上向き感が出ています。2023 年 3 月 15 日の卒業時には、世の中もニューノーマル化が進み、入学時当初と比べると卒業までの2年間で学修面、短大生活面が好転したと推測できます。満足度平均 4.36、成果度平均 4.59 と上振れしています。ただ、設問 4 (学校行事の満足度) は 4.11 まで回復していますが、2020 年度の 4.12 には足りていません(図(4)-1)。

B) 2021 年度卒業生

2021 年度卒業生の在籍は、2020 年 4 月から 2022 年3月です。2020 年 1 月に国内初の新型コロナ感染者が確認されるなどで入学前から外出が自粛され、同年 4 月 7 日には緊急事態宣言も発出されました。2021 年度卒業生は、コロナ禍の真最中に短大生活がスタートし、入学後2年間でとても不自由な状態に置かれ卒業に至った学生です。短大生活では、対面授業の減少、キャンパス活動の制限、学園祭など多くの学校行事が中止や

オンライン開催、学生同士の交流機会の減少などから、当初、夢描いた短大生活が想像したものと乖離した状態であったことは否めません。満足度設問の設問1から設問4、設問8を見ると、設問1(学生生活)4.03、設問2(就活/進学)4.18、設問3(授業内容)4.08、設問4(学校行事)3.66、設問8(学び総括)4.34と、全設問において前年を下回っています。特に、学校行事と学生生活の設問は2020年度からの実施においてワースト1位、2位でした(図(4)-1)。

しかし、設問1(学生生活)と設問4(学校行事)に不満を抱く中、成果度設問の設問5(実践的な知識/専門的な技術を身につけた)と設問7(知識・技能・資格をもとに自ら考えて問題解決に向けて行動できる)について分析すると満足度が「やや不満」「不満」を示す学生において「身に付いた/どちらかと言えば」9%~16%「できるようになった/どちらかと言えば」7%~19%といったポジティブな捉え方が見えました(図(4)-2の2021年度赤字部)。このことから、“コロナ禍で、学生生活や学校行事に不満を感じる2年間だったが、82%~83%の学生が実践的な知識や専門的な技術を身につけ、自ら考え問題解決に向けた行動ができるようになったと成長感を得ている”と観察することができます。

設問5：実践的な知識/専門的な技術を身につけたと思いますか					設問7：知識・技能・資格をもとに自ら考えて問題解決に向けて行動できますか						
		(満足問1) 学生生活		(満足問4) 学校行事				(満足問1) 学生生活		(満足問4) 学校行事	
		身に付いたと思う	どちらかと言えばできるようになった	どちらかと思わない	わからない			できるようになった	どちらかと言えばできるようになった	できるようになっていない	わからない
2021年度	とても満足	35%	28%	1%	3%	2%	2%	35%	22%	12%	1%
	やや満足	55%	35%	7%	9%	3%	4%	55%	18%	31%	2%
	やや不満	8%	5%	2%	1%	1%	1%	8%	2%	3%	1%
	不満	2%	1%	1%				2%	1%	1%	
2022年度	とても満足	51%	49%		2%			51%	41%	10%	1%
	やや満足	46%	35%	1%	8%	2%	3%	46%	24%	18%	1%
	やや不満	2%	1%		1%			2%	2%		
	不満	1%			1%			1%	1%		
2021年度	とても満足	21%	18%	1%	1%	1%	1%	21%	17%	3%	1%
	やや満足	56%	40%	6%	8%	1%	3%	56%	21%	30%	1%
	やや不満	19%	10%	3%	4%	1%	1%	19%	4%	12%	2%
	不満	4%	2%	1%	1%			4%	1%	2%	1%
2022年度	とても満足	41%	40%		1%			41%	35%	6%	
	やや満足	48%	39%	1%	6%	1%	3%	48%	27%	17%	1%
	やや不満	11%	5%		5%	1%	1%	11%	5%	4%	1%
	不満	1%	1%					1%	1%		

図(4)-2. 学生生活/学校行事の満足度と実践的な知識/技術の修得と問題解決への行動力の修得

問6. 社会人教養・現場力・マネージメントを身につけたと思いますか					
		(満足問2) 就活・進路支援		(満足問4) 学校行事	
		身に付いたと思う	どちらかと言えばできるようになった	どちらかと思わない	わからない
2021年度	とても満足	42%	37%	1%	3%
	やや満足	49%	34%	4%	6%
	やや不満	8%	4%	1%	3%
	不満				
2022年度	とても満足	53%	50%		2%
	やや満足	44%	35%	2%	6%
	やや不満	3%	1%		1%
	不満	1%			1%

図(4)-3. 就職支援の満足度と社会人教養と現場力の修得

就活・進路の支援において本学では、例年、入学直後からインターンシップ、就職説明会の参加、編入大学の研究を推進しています。2021年度生は、多くの企業が採用の一部中止や延期などで説明会や面接が減少する傾向にありました。しかし、本学は、採用枠が低下する中でも就職活動を止めることなくオンラインに切り替えた企業説明会、オンライン面談の機会を増やし、学生が積極的に就活できる環境を構築し維持しました。満足度設問の設問2(就活・進路支援)では4.18の評価を得ています(図(4)-1)。

また、2021年度卒業生は、学業面の定性的要素として、従来の対面授業からオンライン授業への適応を余儀なくされ、自宅でのオンライン学習の環境整備も課題になりました。オンライン授業は、教員や学生同士の対話制限が多く、グループワークや実習での相互確認が困難になり、学修の質や理解度に影響を与える場面も否定でき

ません。そのようなこと踏まえると“学生生活、学校行事、進路支援などに一定の満足感がある中で、社会やその周辺環境によって、実践的な知識や専門的な技術が身についたとも、身につかなかったとも、どちらとも思わない学生が存在する”とも伺えます(図(4)-2、図(4)-3)。この状況は、短大生活の2年間を取り巻く社会的な側面から、特に、対面、実習が重要な科目での体験不足によるものと推察しています。

C) 2022年度卒業生

2022年度卒業生の在籍は、2021年4月から2023年3月です。3密を配慮した対面授業、オンライン授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド授業に慣れてきたとはいえ、依然としてコロナ禍の影響は続いています。学修環境や教員、友人との交流に制限がありましたが、ハイブリッド授業で部分的な直接コミュニケーションが可能になり、資格取得の成果に繋がった学生もいました。対面でなければ効果が発揮できない科目においても、ハイブリッド型や人数制限運用による新たな受講スタイルでその効果が出てきました。満足度設問の設問1から設問4、設問8を見ると、設問1(学生生活)4.35、設問2(就活/進学)4.32、設問3(授業内容)4.35、設問4(学校行事)4.11、設問8(学び総括)4.63と、全設問において2021年度を上回っています。しかし、設問1(学生生活)と設問4(学校行事)で「とても満足」と「やや満足」が80%以上を占めています。しかし、設問4(学校行事)においては2020年度数値には僅か戻っていません(図(4)-1)。

2024年度卒業生は2020年度卒業生と比べても満足度が高い傾向にあり、成果度設問は、全設問で大幅に上向き改善しています。満足度設問の設問1(学生生活)と設問4(学校行事)と成果度設問の設問5(実践的な知識/専門的な技術を身につけた)と設問7(知識・技能・資格をもとに自ら考えて問題解決に向けて行動できる)のクロス分析では、共にポジティブ回答が86%~95%を占めています(図(4)-2の2022年度赤字部)。このことから、“学生生活、学内行事をはじめとする学生の満足度が高まるにつれ、成果度も相関して上昇する傾向がある”ことを確認しました。

就職や進路支援においては、就職戦線がコロナ禍以前に戻っているとは言い難く、“依然としてインターンシップなどの学外就業体験の機会が少ない中、社会人としての総合的なスキルが身についたかどうか分からない学生が2021年度と同等比率で存在している”ということは否めません(図(4)-2、図(4)-3)。

2022年度卒業生は、入学当初の1年次は、感染対策のためキャンパスでの活動が大幅に制限されイベント中止やオンライン開催が主流でしたが、2年次からは制限が緩和され学校行事も回復しつつハイブリッド型や人数制限を講じながら短大生活が正常化へと進みました。2年次の学園祭は学生同士の共働的な交流や教員とのコミュニケーションの機会を持つことができ、1年次と様相が大きく変化したことが学生生活、学校行事が大幅に好転した要因にもなっています。設問1(学生生活)、設問4(学校行事)において「とても満足」「やや満足」の回答割合が大きくなりました(図(4)-2の2022年度青グラフ)。

学業面では、対面授業の再開で授業内容が深まり、幅広い知識を身につける機会が得られ、社会人としての基礎教養を高めることに繋がっています。対面授業や学校行事の回復再開で、直接的なコミュニケーションの機会が増え、グループディスカッションや相互のプレゼンテーションなどを通じてコミュニケーション能力が高まったと推察しています。

D) まとめ

コロナ禍は、2年間の短大生活に多く影響を与えました。分析対象の2021年度卒業生と2022年度卒業生は、2020年4月から2023年3月まで在籍した2期の学生です。この2期の学生は、学業や体験の不足、困難な就活、精神的な健康問題など多くの課題に直面した学生たちです。彼らは、従来の学生生活とは異なる状況を乗り越える必要がありましたが、逆に、コロナ禍による経済社会の変動を直接体験し、経済や社会の動向に強く関心を持ち、国際ニュースや経済情勢に触れる機会が増え、社会の変化に敏感になって現実的な視点で物事を捉

える力が養われたと解釈します。これらの経験を通じて得られたスキルや知識は学生たちの財産になりますが、我々、教職員は、この期間に多くの学生が感じた学業面の不満についての声を真摯に受け止め、今後の教育改善に活かすことが重要であります。

4. まとめと今後の課題

各校の結果を見ると、大学コンソーシアム市川が掲げる「プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均満足度が5段階評価で3.5以上」という点について、十分に達成していると考えられます。特に、2020～2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業中心となるとともに、大学に通って友人や教員と触れ合うということもなくなってしまったことにより、学生満足度に大きく影響することが想定されましたが、各校がそれぞれの問題意識のもと、教職員が一丸となりこの困難に対応したことにより、学生満足度が低下することなく維持できたことは大きな成果であると言えると考えられます。特に新型コロナウイルス感染症が明けた2022年度以降は、学生満足度が回復したことも、この点を裏付けるものであると言えると考えられます。

さて、各大学・短期大学の学生満足度に関するアンケートにおいては、各校の問題意識に従い質問項目が作成され、実施・集計・分析を行っています。本共同IRでは、2022年度の報告書で、新型コロナウイルス感染症による影響について共通の質問項目を作成し、集計・分析を行いました。このような特殊な状況下でない限りは、各大学の課題が異なることから、恒常的に共通の質問項目を設けて、比較検証をすることは馴染まないと考えられます。しかし、社会・経済環境の急変による、例えば情報化や国際化などに関する横断調査を実施し、比較、検討することについては、大学・短期大学生の状況を知るという意味においては有意義であると思われます。今後、大学コンソーシアム市川における教育・研究により関係する調査・研究を進めることにより、この共同IRが大学コンソーシアム市川の成長に寄与できるよう、活動を続けていきたいと考えています。